

# 小規模校の児童の他者と関わる力を育てる研究（第二年度）

－小規模校のよさと教育相談の手法を生かした実践を通して－

長期研究員 小松 光 恵

## 《研究の要旨》

昨年度の研究では、小規模小学校のよさと教育相談の手法を生かした実践を通して、自己理解の深まりやコミュニケーションスキルの向上等、一定の成果を得ることができた。今年度は、昨年度の実践に加え、児童の願いや思いを反映させた課題を設定することを通して、児童の主體的な学びを促したり、習得したスキルを活用させたりしながら、他者と関わる力を育てていくことをめざした。

## I 研究の趣旨

本研究では、小規模小学校（以下、小規模校）ならではのよさを積極的に活用することを通して、児童の他者と関わる力を育てることに取り組んだ。一年次には、実態調査を通して小規模校のよさを把握するとともに、そのよさと教育相談の手法を生かした実践を意図的・計画的に行った。その際、他者と関わる力を「自他の見方を広げる」※1「自他にはたらきかける」※2の二つに焦点化して授業等を行ったところ、自己理解の深まりやコミュニケーションスキルの向上等、一定の成果を得ることができた。しかし、実施した授業等の多くは、教師が児童相互の関係づくりについて課題と考える内容を提示し、児童はその解決策を考える、という形式のものであったため、教師が提示する課題を自分の課題としてとらえきれない児童の姿も見られた。そこで二年次は、児童の願いや思いを反映させた課題を設定することで、児童が主體的に学習したりスキルを活用したりすることができるよう工夫した。加えて、引き続き、他者と関わる力を前述の二つに焦点化するとともに、小規模校のよさと教育相談の手法を生かした授業等を継続的に行うことを通して、児童の他者と関わる力の向上を図ることとした。

※1 自己理解や他者理解の深まり、自己受容や他者受容の高まり等を通じた関係性をとらえ直す取組

※2 コミュニケーションスキルや他者と関わろうとする意欲の向上等を通じた関係性を広げる取組

## II 研究の概要

### 1 研究仮説

小規模校において、以下の手だてを講じれば、児童の他者と関わる力を向上させることができるであろう。

【手だて1】児童の強みに着目した授業

【手だて2】朝と業間の時間を活用した日常指導

【手だて3】家庭との連携

### 2 研究の内容と実際

#### (1) 研究の内容

研究協力校の全校児童11名（1・2学年4名、4学年2名、5・6学年5名）を対象に、図1の研究構想に基づいて実践を行った。



図1 研究構想図

#### (2) 研究の実際

##### ① 児童の強みに着目した授業

授業は、児童の道徳的な心情や価値を高め、内発的な動機付けを促すために道徳の時間を活用した。その際、「あきらめずに目標を達成したい」「人との関わりに自信をもたせたい」等の児童や教職員の願いや思いを大切にするとともに、自分の強みを生かしながら自信を育むことができるよう系統的な指導を行った。加えて、図2に示した小規模校のよさと構成的グループエンカウンター（以下、SGE）やソーシャルスキルトレーニング（以下、SST）等、教育相談の手法を生かした授業を全学級に対して行った。

|                           |                                 |
|---------------------------|---------------------------------|
| 授業①<理解>自分の強みを知る           |                                 |
| 小規模校のよさ                   | 教員と児童、児童同士の関係の深さ                |
| <手だて>                     | 友達や教員による新たな視点の提示                |
| 教育相談の手法                   | SGEのエクササイズ「私の三面鏡」               |
| 授業②<深化>自分の強みの生かし方を知る      |                                 |
| 小規模校のよさ                   | 児童同士の関係性の深さ                     |
| <手だて>                     | 自分の強みを生かして友達を励ます場の設定            |
| 教育相談の手法                   | SST「励ましの言葉をかけよう」                |
| 授業③<活用>自分の強みを生かした解決方法を考える |                                 |
| 小規模校のよさ                   | 個に応じたきめ細かな指導の充実                 |
| <手だて>                     | 教師や保護者による多様な意見の提示               |
| 教育相談の手法                   | SGEのエクササイズ「二つのポイントでチャレンジ」       |
| 授業④<活用>自分の強みを生かして他者と関わる   |                                 |
| 小規模校のよさ                   | 村内他校とのつながりの深さ                   |
| <手だて>                     | 児童同士が新たな一面に気付く場の設定              |
| 教育相談の手法                   | SGEのエクササイズ「質問ジャンケン」「フレーションミング」等 |

図2 各授業に取り入れた小規模校のよさと教育相談の手法

## ア 授業②<深化> 高学年における実践

### ○本時の概要

本時では、「あきらめずに目標を達成したい」という願いをもっている児童に、「互いに励まし合うことで粘り強く取り組むことができる」ことを実感させたいと考え、友達が失敗して落ち込んでいる場面における関わり方について、SSTの手法を用いて考えさせた。その際、小規模校のよさである「児童同士の関係性の深さ」を活用し、自分の強みを生かして励ます場を設定した。

### ○活動から見えた児童の姿

A児は「前向きなところ」という強みを生かし、失敗して落ち込む役の友達に、「そんなに落ち込まないで。明日、計画を立てよう」と笑顔で伝えていた。また、B児は「頼りになるところ」という強みを生かし、「大丈夫だよ。怒られるときは一緒に怒られてもいいから」と肩に手をおいて励ましていた。失敗して落ち込む役の子は、励ましを受けたことで、うれしそうな表情になり、自然に「ありがとう」と伝えていた。

### ○振り返りから見えたもの

振り返りでは、児童から「励まされたら、またがんばろうと思ったので、私も落ち込んでいる友達がいたら優しい言葉を使ってハッピーにしたい」「友達を励ますためにこれからも自分の長所や経験を生かしていきたい」等の感想が出された。自分の強みを生かして励ますことを意識させたことにより、自己理解の深まりや他者に働きかけようとする意欲の高まりを見ることができた。

## イ 授業④<活用> 中学年における実践

### ○本時の概要

これまでの校外行事等において、「もっと他の学校の友達と話せばよかった」という思いを抱いている児童に、「自分の強みを生かせば他者と関わることができる」ことを実感させたいと考え、小規模校のよさである「村内他校（各学級20人～30人程度）とのつながりの深さ」を生かした交流授業を設定した。その際、SGEのエクササイズ「質問ジャンケン」や「ブレインストーミング」等を取り入れることで、同校、他校、それぞれの友達の新たな一面を見付けることができたり、よりよい関係づくりが促進されたりするよう工夫した。

### ○活動から見えた児童の姿

本時では、自分の強みの一つである「元気なところ」を生かして活動するC児の姿を見ることができた。C児は、事前に自ら立てた「3人に話しかける」という目標を達成するために、戸惑いながらも勇気を出して自分から他校の友達に歩み寄り、話しかけていた。

### ○振り返りから見えたもの

活動後のC児の振り返りカードには、「目標を達成できてよかった。また交流したい」と書かれていた。加えて、交流授業の映像を見せたり、村内他校児童からの「Cさんは積極的に発表していてすごいなと思った」「Cさんたちがいつもいれば楽しそうだなと思った」等の感想を読ませたりした後は、ノートに新たな長所「(自分には)話しかける勇気がある」が書き加えられた(図3)。さらに、保護者からは「勇気の扉が開いてよかったね」とのコメントも寄せられた。村内他校との関係性の深さを生かし、関係づくりを促すための活動を行ったことは、児童の自己への肯定的な見方を広げる上で有効であった。

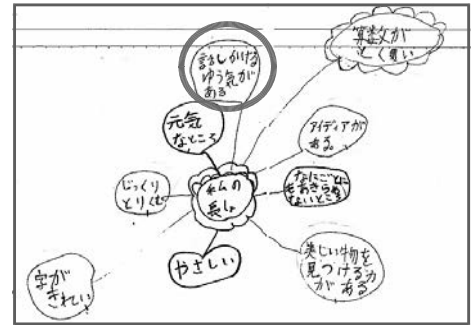


図3 長所が書き加えられたC児のノート

## ② 朝と業間の時間を活用した日常指導

小規模校のよさと教育相談の手法を生かし、授業で学んだことをより深めさせたり、成功体験を積ませて自信をもたせたりすることに重きを置いた活動を行った。

### ア 朝の読書タイムを活用した本の読み聞かせ

自己への見方を広げさせるために、他者と関わる力の基盤となる自己肯定感を育む上で有効な本の読み聞かせを行った。その際、小規模校のよさである「地域とのつながりの深さ」を生かして村の図書館に本の選定を依頼した。また、読み聞かせを通して主人公の考え方について話し合う機会を設けたことで、短所も見方を変えれば長所になることに気付かせることができた。

### イ 業間の時間を活用した全校活動

#### (7) 中学生からのビデオメッセージ

児童に中学校生活への見通しをもたせるため、卒業生である中学生に「友達づくりでうまくいったこと」等について聞き取りを行い、ビデオメッセージにして視聴させた。中学生は、「相手に話しかけられるのを『待つ』という考え方を変えてみよう」「どんなに小さい目標でも続けてがんばれば大きな目標になる」等、自己の体験から学んだことを話してくれた。視聴後、児童のノートには、「私も先輩みたいに自分から話しかけていこうと思った」「😊×5。とってもうれしかった」「一つ一つが心に残る深い言葉で、がんばっていこうと思った」等の感想が記されていた。中学生からのメッセージは、児童に目標達成や友達との関係づくりにおける前向きな気持ち、次につながる意欲をもたせる上で有効であった。

### (4) 同規模校との交流

他者と関わる意欲を高めるために、全校児童数が同規模であるD小学校とテレビ会議システムを活用した交流を各学期に1回ずつ行った(図4)。「学校紹介」や「地域の自慢対抗戦」等の交流を通して、児童は堂々と自分の意見を話したり感想を発表したりすることができた。これは、同規模ゆえに共有できるものがあるという安心感が、児童の積極性や他者と関わる意欲を引き出したためではないかと考えられる。実践者は当初、「将来、今よりも大きな集団に入る小規模校の児童にとっては、その環境に慣れさせるために、大きな学校と交流することが、他者と関わる力を高める上で重要である」と考えていた。しかし、この取組を通して、「同規模校との交流」には、「他者と関わる事ができた」という成功体験を積み重ねることにより自信を育む重要な意味があることが分かった。



図4 同規模校との交流の様子

### ③ 家庭との連携

定期的に通信を発行し、授業や日常指導の様子を発信した(図5)。通信発行後、児童のノートには保護者から我が子を励ますコメントが寄せられた(図6)。家庭においても、児童の長所に目を向けた声かけを行ってもらったことは、児童の他者と関わる意欲を高めたり、自分の見方を広げたりすることにつながった。



図5 発行した通信の一例

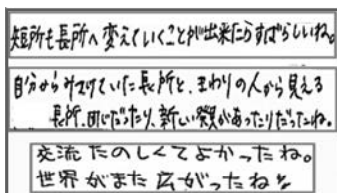


図6 保護者からのコメント

## III 研究のまとめ

### 1 研究の成果

#### (1) 事前・事後調査の比較

実践前後に、全校児童と教職員を対象に紙面による事前・事後調査を行った。特に変容が見られた設問と結果(図7)は、以下のとおりであった。

児童「設問12 自分のことを好きだと思う」  
 教職員「設問12 児童は自分のことを好きだと思っている」

「自他の見方を広げる」について聞いた本設問では、肯定的に回答した児童が8人から10人に、教職員が4人から7人に変化した。これは、実践全体を通して自分のよさに目を向けていこうとする気持ちを高めることができたとともに、そのよさを発揮させる機会を設定したことにより、他者と関わる力を支える自己理解の深まりや自己受容の高まりが見られたためと推察される。

児童「設問4 友達から『すごいね』等と言われている」と思う  
 教職員「設問4 児童は友達に『すごいね』等と言っている」と思う

「自他にはたらきかける」について聞いた本設問では、肯定的に回答した児童が5人から9人に、教職員が4人から7人に変化した。これは、体験を通して他者とのよりよい関係づくりについて考えさせたり気付かせたりしたことにより、他者理解が深まったり他者に働きかけようとする意欲が高まったりしたためと推察される。

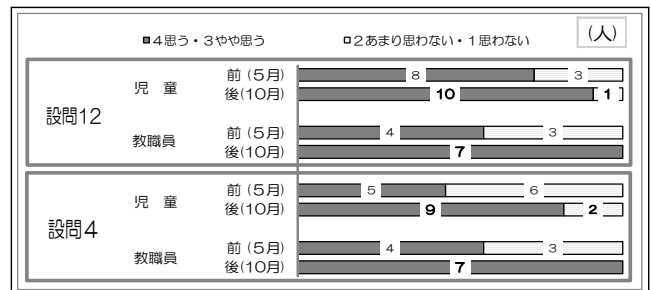


図7 事前・事後調査の比較(児童N11, 教職員N7)

#### (2) 事後面談から見た児童の姿

実践後、これまでの学習を振り返って気付いたことや感想等について、全校児童を対象に個人面談を行った。6年生のE児からは、「(同規模校との)交流では、自分の長所もその生かし方も分かって自信がついたので、緊張しないで交流することができた」との回答があり、他者と関わる意欲を高めている姿を見取ることができた。加えて、他の児童からも「自分の短所も克服したいと思った」「あきらめずに自信をもってできるようになった」等の回答が得られた。児童の願いや思いを生かして課題を設定するとともに、一貫して児童のよさに目を向けた支援を行ったことにより、他者と関わる力を支える自己理解の深まりや自己受容の高まり、粘り強く取り組もうとする意欲の高まり等を確認することができた。

#### 2 今後の課題

今後も小規模校の「今あるよさ」を積極的に活用することを通して、児童同士のよりよい関係づくりを促進するとともに、他校児童や地域の人々とつなぐ支援を行うことで、児童の他者と関わる力を育てていきたい。また、小学校での学びが中学校でさらに深まるよう、友達との関係づくりに効果が期待される教育相談の手法を活用した取組について、村内各校に対しても提案していきたい。